

2020年5月25日

各位

会社名 株式会社タカラレーベン
 代表者名 代表取締役 島田 和一
 (コード番号 8897 東証第一部)
 問合せ先 社長室 長 鈴木 健介
 (TEL 03-6551-2130)

棚卸資産の評価損及び特別損失の計上並びに

2020年3月期業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

当社は、2020年3月期決算において、ホテル事業において棚卸資産の評価損並びに減損処理による特別損失の計上をすることとなったため、2019年5月16日に公表しております2020年3月期の連結業績予想と本日公表の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 棚卸資産の評価損並びに減損処理による特別損失の計上について

当社では、近年、京都市内において「ホテル事業」の展開を進めておりましたが、京都市内の宿泊施設の飽和によるマーケットの変調により稼働率並びに宿泊単価が当初計画を下回る状況が発生しております。また、2020年に入ってから新型コロナウイルス感染拡大に伴い、外出自粛やインバウンド需要が大きく減少することとなり、各宿泊施設並びに宿泊施設の建設予定地の収益性の再評価、用途変更の検討などを行った結果、棚卸資産の評価損1,008百万円、固定資産の減損損失2,071百万円を計上することといたしました。

2. 業績予想について

2020年3月期 通期連結業績予想数値と実績値との差異 (2019年4月1日～2020年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 160,000	百万円 13,000	百万円 11,800	百万円 8,000	円 銭 73.79
実績値 (B)	168,493	11,901	11,201	5,361	49.45
増減額 (B-A)	8,493	△1,099	△599	△2,639	—
増減率 (%)	5.3	△8.5	△5.1	△33.0	—
(ご参考) 前期実績 (2019年3月期)	132,005	10,046	9,027	6,426	59.33

差異の理由

流動化事業における売却が想定より進んだため、売上高につきましては計画を上回る結果となりましたが、上記.1に記載のとおり、棚卸資産の評価損を 1,008 百万円計上したことにより、営業利益は計画を 1,099 百万円下回ることとなりました。親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、棚卸資産の評価損に加え、特別損失（減損損失）2,071 百万円を計上したことより、計画を 2,639 百万円下回る結果となりました。

以 上